

第7回研究交流集会報告

「主体的で対話的な学び」とは ～実践モデルから検討する～

2024.3.16

追手門学院大学

平野智之

「誰もが自信を持って生きていける社会は実現可能か」

高校1年生が仲間どうしで紡ぎ、問いかけた言葉。

大阪の総合学科高校において二十数年続いてきた「コンペティション」スタイルの探究型実践「産業社会と人間」から生まれた。

「権利（ライツ）」をテーマに、「貧困」を自分自身の課題として捉え直し、その解決に向けた提案と解決へ行動に踏み出した学びのプロセスから「主体的・対話的で深い学び」を考える。



大阪府立松原高校 創立50年

1974 (昭和49)	市民4万筆の署名で誕生	当時の学区は公立普通科の収容率29% (府内最低)
1978 (昭和53)	「準高生」開始・中学生による2万筆の署名	障がい(児)者は1979年まで就学免除・就学猶予の措置
1996 (平成8)	大阪初の総合学科高校 (柴島・今宮高校と)	5系列160の選択授業や「産社」「課題研究」を開始
2001 (平成13)	知的障がい「調査研究校」	平成17年「学校教育審議会」で制度化
2006 (平成18)	知的障がい自立支援コース	全国で初めて高等学校で知的障がい者が学ぶ
2017 (平成29)	高校生によるこども食堂 「松高きっちゃん」	「産社」の生徒発表での企画をNPOと協働で実現

大阪府立松原高校総合学科の3年間



3年	「課題研究」 6000字論文 選択科目	
2年	選択科目（国際・福祉・情報・芸術等）	選択制人権学習 海外研修旅行
1年	「産業社会と人間」 コンペティション	ホームルーム合宿 参加型学習
	学びの流れ	関係づくり

実践モデル「産業社会と人間」の位置

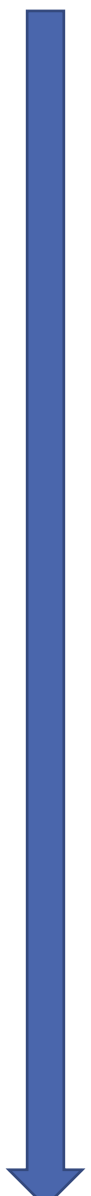
1年生必修科目総合学科の多様な学びの土台

「産業社会と人間」発表大会「コンペティション」

社会にある課題について知り、当事者や専門家に出会い、考え、解決策の提案をグループ発表で行う。2000年開始、今年で25回目。

コンペ2023 ジャンル	内容
子どもを救え！	ヤングケアラー、子どもの貧困や虐待。子どもの「リアル」な課題を探ります。
さらだぼうる	国籍やルーツに関係なく、共に生きていくために何ができるか提案します
フェミ	ジェンダーやセクシュアリティによって不利な立場になる仕組みがなぜ社会に生まれるか
思いやろうや、お互いに	障がいについて学び、偏見や差別、身近なバリアをどうすれば改善できるのか提案します。

「コンペティション」の流れ



8月	・担当者（学年）でのテーマ議論、設定
10月	・ジャンル担当教員による ・生徒の希望調査；ジャンル分け
11月	・テーマに関わる学習 ・「リサーチデー」 (ジャンルに関連する人、団体等*へフィールドワーク)
12月	・取り組みたいテーマの提出 ・ジャンル内でグループを組み、企画開始。
1月 2月	・企画案作成、プレゼンテーション練習 「コンペティション（発表大会）」 (審査員に、*の方々を招待)

コンペティション2017

ここからは木村 悠先生(ライツジャンル担当)のスライドをもとに作成しています

凸凹 (障がい)

ジェンダー

国際 (多文化)

松原おこし

ライツ (権利)

テーマ設定の思い

- ・ アルバイトに依存する生徒
 - 遅刻・欠席が増え、アルバイト中心の生活に・・・
- ・ 違法労働の現状を知る
(深夜勤務、シフト強制、罰金 etc.)

→ 「働く権利」について学ばせたい！！

テーマに関わる学習



- ・ 権利の歴史、ブラックバイトの実態、
労働基準法、労働組合（ユニオン）など
 - ・ 反応は悪くなかった・・・
- 有給やミーティングの時給を店長にもらう生徒も

損得で終わってるのでは・・・

「自分たちが声をあげる主体」??

→自分と社会の関わりも考えさせたい

セーフティネットの学習と生徒の発言

・生活保護制度と自己責任論

生徒の発言

「それって税金やろ？俺はそんなんに頼るのはいややわ。そんなんに頼るくらいやったら、死んだほうがましや。」

私の家も生活保護を受けている。周りとの違いに中学くらいから気づき始めたけど、その人達に対する偏見や差別があることは初めて知った。おかしいことをおかしいって言えるようになりたい。

生徒Aの感想

コンペティション（発表）に向けて

（木村先生） **当事者**が自らこの問題に向き合って
支援される**客体**ではなく社会を変える**主体**となってほしい

7Aグループ（生徒Aを含む4人）

- ・ **何故「自己責任論」が出てくるか**疑問を持ち、最寄駅で100人にアンケートを取る。
- ・ その結果の受けとめをめぐってメンバー内の話し合いで**生活上の話を打ち明ける生徒**が出てくる。
- ・ さらに役所の生活保護担当の**ケースワーカーのインタビュー**も行う。



当日の発表

テーマ「誰もが自信を持って生きていける社会は実現可能か」

みなさんは誰もが自信を持って生きていける社会は実現可能だと思いますか？

今の社会ではこの問いに対して実現可能ではないと考えます。何故なら私たち自身、自信を持って生きていけないからです。私たちはこの問いに対して真剣に向き合ってきました。

当日の発表

誰もが生活保護という制度を利用する権利があります。しかし、その生活保護制度を受けている人に対して「自己責任」だとバッシングする人があることを授業で知りました。そこでインターネット上で「生活保護」という単語を調べるとたくさんのお悪印象の言葉がありました。みなさんも「生活保護」を自己責任だと思いませんか？

最初のテーマ 「誰もが自信を持って生きていける社会は
実現可能か」



最後の結論

「誰もが自信を持って生きていける社会を
実現しなければならぬ」



人と人がつながる場所 『みんなの食卓』
をつくりたい

松高版「子ども食堂」の立ち上げ

- 地域の子ども食堂へフィールドワーク
- 課題早期発見フォローアップ事業
 - ⇒ NPO「やんちゃまファミリーwith」と連携
- 松高きっちゃん・・・ 松原高校内で（本校生徒対象）
- みんなの食卓・・・ 地域の人権交流センターで
（地域の子ども対象）

この学びで生成されていること

学びの場	生成されるプロセス
(0)学習以前	貧困について、自己責任を内面化するなど傷ついている状態。
(1)対話と問いを持つ場	「権利」についてまなびを話しあう場から自分自身に問いが生まれる
(2)他者と出会い、その声を聴く場	問いの答えを求めて、アンケートやフィールドワーク（ケースワーカーら）で他者と出会う
(3)対話が反復される場	他者の声を参考に、当事者として自分たちのことを話し合い、自分のあり方を問い直す
(4)主体的に語り実践する場	発表を通じて、自分と社会をつなげて活動を開始する（子ども食堂実践）

主体的

対話的

深い学び

生徒の言葉から

「やっぱり、いろいろな人とつながって関わって、いろいろな話をする^{こと}で、自分と向き合える^{という}のが一番で、それで、自分探しする^中で、新しい自分、いいふう^に変わった自分へと、成長^{でき}ました」

「問題とかを耳にしたときに、それは初めは何か、そんな身近とかじゃなかったけど、今は、誰かの問題^{って}いう感じで、誰か^{って}いうか、想像^{って}いうか、知ってる人の問題として^考えるようになった」

主体的

対話的

深い学び

- ① 「主体的で」 ・ ・ 自分たちに関わるテーマ
を設定し、話し合う場から問いが生まれ、
- ② 「対話的で」 ・ ・ 問いの答えを求めて、「他者」
と出会い、どう応答するか自分が問われる
- ③ 「深い学び」 ・ ・ 社会との関わりの中で自分たち
の課題を問い続ける

教科学習への発展 「GOLDEN理論」 (中川、深井、木村先生らによる2020)

GOAL	教科の目標	学校ごとの教科を通して育てたい生徒像
ORIENTATION	単元での目標	単元での到達点。純粹な教科・教材の面白さや社会との繋がり理解が必要
LEARNING CONVERTER	問いの変換	本時の目標 → 生徒の目標 に変換することで生徒の主体性を生む
DESIGN	学びのデザイン	授業目標に到達するデザインを考える。 「生徒が動く時間・視覚・構造化」
ENCOURAGE FACILITATION	承認的ファシリテーション	声かけや形成的評価 生徒の声から授業を展開する力。 計画と実施は違うことを受け入れる力